

# おおずもう観戦雑感

ふちんかん

2ヶ月に一度の印刷のたびに同時に行われている大相撲、その話題として星取りの状況をチェックする程度の興味しか無かった私。そんな私が観戦に行くことになるとは。野球以外のスポーツ観戦としては、25年前に見たプロレス以来のこと。さて、そんな私なので、詳しい相撲界の話題は先のお二人にお任せすることにして、私の目に映った意外な物事を紹介することで、末席を濁させてもらうことにしたい。

## 1.会場近辺では太鼓の音が鳴り響いていた

相撲中継でもおなじみの相撲太鼓、そのうちのひとつ「寄せ太鼓」と呼ばれるお囃子のような軽快な太鼓が、早朝の難波周辺で鳴り響いていた。実際に叩いている府立体育館に近づくにつれ、ビルに反射して違う方向から聞こえてくるのが意外。



## 2.長時間・無休憩

テレビの相撲中継で映される取り組みなんてごく一部だとは分かっていたが、まさか朝の8:35から取り組みが始まるとは。そして午後6時前の終了まで休憩も無く延々と取り組みが続けられるとは意外。全ての取り組みを観戦するつもりなら座布団など長時間座り続ける準備が必要だ。もちろん食べ物・飲み物の準備は言うに及ばず。前半は仕切り直しなど無く、あっという間に立ち会いになってしまうので、トイレに立つこともできない。場合によっては携帯トイレまで覚悟しなくてはならない？大相撲観戦は意外なほど過酷なのだ。

## 3.閑散

午前中は200人いるかないかという状態だった。そのおかげで砂かぶり付近まで移動して観戦することもできた。じっと同じ場所で観戦しなくてはいけないと思っていたので、ガラガラ&移動可能というのは意外だった。この自由度なら半日生きていけるような気がした。



## 4.テッポウ厳禁

お約束事項として「テッポウ厳禁」の貼り紙。土俵まわりの柵席は鉄骨組みなので、力士が「つっぱり」の練習である「鉄砲」なんかすると大きな振動、下手すると観客席の崩落にもつながる大事故を引き起こすおそれがある。そうした理由でむしろ「厳禁」なのだが、その鉄骨に懸垂をしている力士がいた。鉄骨が曲げられるのではないかという心配の一方、軽々と懸垂している姿も意外であった。



# 大相撲初日フル観戦

## 5.再入場

再入場は一度だけ許される。ということで午前中から酒をくらっていた我々であるが、昼食のために外出することになった。午前中から相撲を見に来ている人は少ないとはいえ、周辺は繁華街である。早めに行かないと昼食難民になるおそれもある。我々のチョイスはお約束の「王将」。ここもあつという間に満席になった。力士も食べに来ているのが、まあちょっと意外だが。力士だって毎食「ちゃんこ」というわけでもないのだろう。

## 6.注目の力士(ネタかぶり御免)



宇瑠虎(ウルトラ)関、現役最軽量力士。身長も164cmと下手すると行司よりも小さいかも。しかも学生時代に相撲の経験がなく、21歳になってから新弟子検査に合格と経歴が意外。彼の所属する序二段には同じような体格の力士もいるが、右写真のように体格だけは幕内級の力士もいるわけで、相当苦戦していると思われる。



もう一人、勢(いきおい)関。珍しい一文字のしこ名は、本名とかでは無く、新聞から適当に選んだとのこと。このおおざっぱさは意外。両親?と思われる男女が応援団として、横断幕を掲げたり、我々の周囲に団扇を配って応援を呼びかけるなどしていた。応援のせいか勝つことができ、周囲は祝福ムードだったのだが、配った団扇を回収していたのは意外&興ざめであった。

## 7.つり屋根・ます席

本来の土俵の上には、柱に乗った屋根があるものだが、TV中継や地方場所への移動を考えてか、つり屋根になっている。四隅には房が垂らされ、四方位をあらわす青/赤/白/黒の色がつけられている。外国人の観光客には、このつり屋根は意外に映っていただろう。



ます席とは、江戸時代に歌舞伎などの芝居小屋で始まった区切りのある平席のこと。芝居小屋では廃れてしまったが、相撲では継続している。ます単位での料金なので4人座れば安くなるが、かなり狭い。意外にも朝から家族4人でお弁当を広げていた家族がいたが、子どもたちは最後まで飽きずに観戦していただろうか。人ごとながら心配である。

